

一般社団法人日本粘土学会 2022 年度第 2 回理事会議事録

日 時：令和 4 年 1 月 22 日（土）15:05～17:00

会 場：Zoom 会議室

出席者：理事（25 名）小暮敏博、千野裕之、中川昌治、佐藤 努、會澤純雄、伊藤健一、上原元樹、小口千明、亀島欣一、黒田義之、笹井 亮、寒河江竹弘、地下まゆみ、鈴木正哉、高木慎介、田村堅志、手束聡子、中戸晃之、日比野俊行、万福裕造、宮元展議、三好陽子、毛利恵美子、横山信吾、鈴木憲子

監事（2 名）：月村勝宏、志々目正高

オブザーバー：藤村卓也

理事以外の常務委員（4 名）：川俣 純、森本和也、佐久間博、樽田誠一

事務局：川島朝子

成立確認：理事総数 27 名の半数 14 名、出席理事 25 名で理事会の開催は成立

審議事項

1. 2022 年度事業中間報告

各担当委員から配布資料に基づいて中間報告があり、承認された。庶務委員より別資料によって会費未納者のリストが示され、委員の中にリスト中の未納者をよく知っている人がいれば本人に伝えて欲しいとの要請があった。

2. 2022 年度会計中間報告

伊藤会計委員から配布資料に基づき中間報告がなされた。審議すべき事項として会費資格停止者及び名誉会員からの会費の「預かり金」の処理案（会員停止者からの入金は復帰後の会費とし、また名誉会員からの決定前の入金は返金する）が提案され、承認された。名誉会員については来年度以降に同じ事が起こらないように、年度内に来年度の名誉会員を決定し、会費の請求が無いようにすることが確認された。

3. 粘土科学討論会について

（1）第 64 回粘土科学討論会について

第 64 回の樽田実行委員長より配布資料に基づき、開催報告および会計報告があった。参加人数は 123 名であったが、内 2 名はシンポジウムの講演者を討論会に招待したので、会計上は 121 名の参加であるとの説明があった。また収支については第 63 回（埼玉大学現地開催）と同程度の黒字となったことが報告され、承認された。

（2）第 65 回粘土科学討論会について

第 65 回の笹井実行委員長より配布資料をもとに開催案の説明があった。現時点では対面での開催が計画され、会場費を無料とするため島根大学を共催としたいという提案がなされた。また要旨送付方法として、市販のフォーム作成ツール（formrun）を使いたいとの申し出があり承認された。田村シンポジウム担当委員より配布資料に基づいてシンポジウム案に関する説明があり、「計算科学」をテーマで行ないたいという提案がなさ

れ、承認された。

(3) 第 66 回粘土科学討論会について

佐藤常務委員長より第 66 回粘土科学討論会は仙台の産総研東北センターに打診し、内諾を得ていることが報告され、承認された。

4. 役員選出投票の方法について

森本選挙管理委員より配布資料に基づいて説明があった。選挙管理委員会としては費用、セキュリティを精査した結果、電子投票システムのクラウドサービスを採用したいとの提案があり、承認された。

5. 個人情報保護規定（仮）について

伊藤会計委員より配布資料に基づいて説明があった。現在本会では個人情報保護についての公知はされていないが、クレジットカードの使用などもあり本提案をした旨が紹介された。細かい点については事務局と共に詰める必要があるが、規定を定めることについては承認され、本規定確定後はホームページに掲載こととなった。本件に関する今後の窓口は渉外が担当することが付け加えられた。

6. クレジットカード情報提出様式（案）とクレジットカード決済申請書兼承諾書（案）について

伊藤会計委員より配布資料をもとに提案があり、承認された。

7. 学会賞等推薦フォームの改定について

田村選考委員長より、本会発行の学術雑誌への投稿を緩やかに促せるよう、学会賞等推薦フォームの改定が提案され、業績欄に「粘土科学および Clay Science に掲載された論文の合計数」をかいてもらう改定案が承認された。

8. その他

(1) Clay Science への依頼原稿に対する投稿料について

中戸 Clay Science 編集委員長より、Clay Science への投稿が少ないので、退職したシニアの方および奨励賞受賞者に総説の投稿をお願いし、その際、依頼原稿の投稿料は徴収しないこと、。ただし学術雑誌として総説が多いのは望ましくないのでは、号当たり 1 報程度を予定するという提案があり、承認された。

(2) Asian Clay2024 について

川俣渉外委員より現時点での状況について報告があった。口頭発表は on site、ポスターは online、懇親会は開催しないということで進んでいる。また日程は 2024.6.1～15 の間の数日で開催される事が決定している。赤字が出たときの按分（黒字の場合も同じ按分）を決める必要があり、CMS と Asian Clay が半々、Asian Clay の中では日本：中国：その他が 2：2：1 という案が出されていること、アジアからの参加者として 100 名が見込まれていることが紹介された。また、佐藤常務委員長より、学術振興基金を使い一般会計への負担を極力減らして、もう少し負担してもよいのではないかとの意見も出された。さらに、日本からは 50 名程度参加してもらい、半分は負担してもよいのではないかという意見が出た。本件については他国との調整もあるので、渉外を通じて今後も協議することとした。

(3) 学術振興賞について

小暮会長から、今年度開催予定の ICC がオンラインになっても学術振興賞は授与できるので、ふるって応募して欲しいとのコメントがあった。

報告事項

1. 天然イモゴライトの参考粘土試料登録について

森本参考粘土試料委員長より配布資料をもとに説明があった。供給量についての質問があり、他の参考粘土試料は 100 g/個で最大 5 個までとしているが、イモゴライトは 1 g/個で 5 個までなので、最大 5 g となり当面は問題ないだろうとの回答であった。また、ゾル状の試料をパウチ包装で頒布することについて、特に海外に発送する場合に問題はないかとの質問があり、液漏れなどの点について問題はないとの見解であった。しかし、試料は天然土壌からの精製品であり、送り先の国の規則を調べる必要があることが指摘された。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、代表理事及び監事がこれに記名押印する。

令和 4 年 1 月 25 日

一般社団法人日本粘土学会 理事会

代表理事（会 長） 小 暮 敏 博 ⑩

代表理事（副会長） 中 川 昌 治 ⑩

監 事 月 村 勝 宏 ⑩

監 事 志 々 目 正 高 ⑩